

# ヒアリング結果

## ～ 性的マイノリティの方への配慮の視点① ～

資料 2 - ③

令和 5 年 8 月 2 日

武蔵野市第 5 期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会  
(第 3 回)

武蔵野市健康福祉部健康課

# 目的

---

国や自治体において、性の多様性に関する理解の増進が求められている現状を受け、性的マイノリティ当事者の居場所づくりとして交流会等を実施している団体の活動の実態や課題等を聴き取り、「武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画」策定にあたり、参考とするため実施した。

# ヒアリング概要

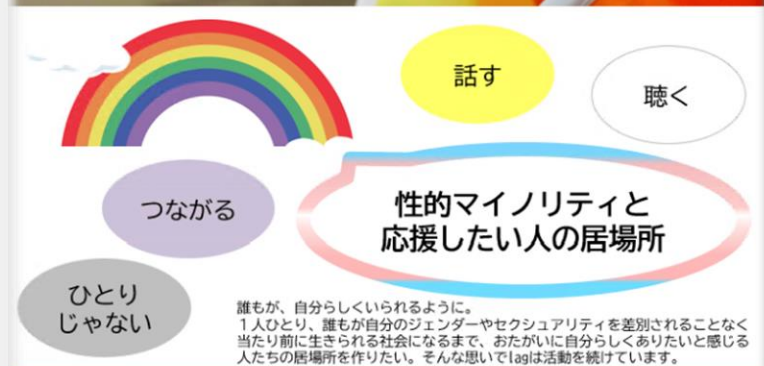
## 【実施概要】

ヒアリング先 lag (ラグ)  
日時 令和5年7月11日 (火)  
方法 オンライン (Zoom)

## 【lag (ラグ) とは】

性的マイノリティと理解者・支援者の居場所づくり、ピアサポート\*を実施している。誰もが自分の性のあり方を差別されことなく当たり前で生きられる社会になることを願い、性的マイノリティと理解、関心のある人が安心して過ごせる居場所づくりとしての交流会等を開催している。

\*ピアサポート … 同じような立場にいる人による支援



### lag(ラグ)

【活動内容】 LGBTQ、性的マイノリティと理解・関心のある人の居場所づくり(2016年9月 活動開始)

【活動拠点】 都内(主に武蔵野市など)

【参加対象】 ※主にノンバイナリー、Xジェンダー、トランスジェンダーの方の割合が多いですが、それ以外の方、アライの方の参加も歓迎です。気軽にご連絡ください。

【お問い合わせ】

メールアドレス office.lag.dialog@gmail.com  
ホームページ <https://lag-dialog.amebaownd.com>  
Twitter @lag\_dialog  
Facebook facebook.com/lag.dialog



# 知っておきたい基礎知識

## ○ 性のあり方

主に4つの要素の組み合わせによって形作られているが、組み合わせは多様であり、はっきりと分けられるものとは限らないため、性のあり方は人それぞれ異なる。

<b>身体的性別</b> （身体の性）	性に関する身体づくりや身体的・生物学的特徴
<b>性自認</b> （自認する性）	自分の性をどう捉えているか
<b>性的指向</b> （好きになる性）	恋愛感情がどの性別に向くか向かないか
<b>性表現</b> （表現する性）	言葉づかい、服装、しぐさ等、社会的に性別をどう表現しているか ※必ずしも性自認と一致するとは限らない

# 知っておきたい言葉

---

## ○ 性的マイノリティ

「出生時に判定された性別と性自認が一致し、かつ性的指向は異性」というパターンに当てはまらない人々のこと。LGBTと呼ばれることもある。

# ヒアリング結果

【質問 1】 事業内容を教えてください。

主に、性的マイノリティ、理解者・支援者の居場所づくりとしての交流会、イベント、講座の開催を行っている。

活動開始は2016年9月から、武蔵野市など主に都内で活動している。

交流会について、去年は毎月実施した。今年は3回程度実施予定。

また、今年6月に行われた、武蔵野市男女共同参画フォーラム2023男女平等推進団体パネル展にも参加し、lagの活動紹介のほか、性的マイノリティの困りごとや嬉しかったことリスト、おすすめ書籍などの展示を行った。

## 【質問 2】

心身の健康・食生活・妊娠・学齢期前までの子育て等についての困りごととして、どのようなものがありますか。

- 日々異性愛者でシスジェンダー\*として認識されるなかでの心理的ストレスや、カミングアウト\*しても偏見やアウティング\*被害に遭うなどにより苦痛が重なり、食生活や睡眠に影響することもある。
- 家族や学校、職場など周囲から認識される性別や性的指向の不一致による精神的苦痛、誰になら安心して話せるかわからないといった孤立から自傷行為、希死念慮につながることも少なくない。

\* シスジェンダー … 身体的性別と性自認が一致する人。

\* カミングアウト … 性自認または性的指向に関して本人が公表すること。

\* アウティング … 本人の許可なく、本人の意思に反して性自認または性的指向を第三者に公表すること。

- 保険証に記載されている性別が、外見や服装と異なることから、偏見を持って見られるのではないかと不安で、病院や健康診断に行きづらい。
- 病院などでフルネームを呼ばれ、周りに居合わせた他の人たちに性別のことを気づかれてしまうのではないかと不安になった。
- 身体的には女性なので、子宮がんなど婦人科検診を受診した方が良いと分かっているが、性自認や社会生活上の性別は男性であるため、受診をためらうことがある。
- 健康診査などで、検査着の色が男女で分けられていると、性自認とは異なる色を着用することになり苦痛を感じた。
- 市から送付される健康診査の案内の封筒に、「子宮がん検診」などと記載されていると、男性として生活している場合、ルームシェアなどの同居人に、身体的には女性であることが気づかれてしまう。



- 子育て中、書類に父母欄があると、書くときに精神的に解離してしまう。子育て中は常に戸籍上の性別を知られた状態が続き、精神的に追い詰められることがある。
- 性自認や生活している性別と異なる更衣室を利用できず、ホルモン治療を行っているためどちらの性別で受診してよいかわからず健康診査や医療受診をためらった。
- トイレが男女2種類しかない場合、どちらも利用できず排せつを我慢した事がある。
- 災害時、身体的には女性だが外見は男性のため、生理用品を入手することができなかった。また、登録されている性別ごとに支援物資が配布されるため、性自認に沿った生活用品を入手することができなかった。
- 職場の上司などから「女/男のくせに男/女みたいな格好するな」と何度も注意され、メンタルヘルスを崩し、退職した。
- 相談できるところがなく、自分の居場所がないように感じる。

## 【質問3】

困りごとに対し、どのような配慮があると良いでしょうか。

- 病院の受付では、フルネームではなく、名字または番号で呼んでもらえると安心できる。また、性別にかかわることを話すときは周囲に聞こえないよう配慮してほしい。
- 健康診査時の検査着の色は、性別にかかわらず全員同じ色か、あるいは3つ以上の選択肢があると安心できる。
- 個室の更衣室などが無い場合、更衣室は男女別になっていたとしても、その中で間仕切りやカーテンなどがあると着替えのときに周囲が気にならなくて良い。
- 健康診査等の案内の封筒に、身体の部位を記載しないなどの工夫があると良い。
- 専門相談以外でも、複合的な悩みも安心して話せるようになると良い。
- 性的マイノリティの子どもや保護者の声を紹介した、特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ発行の「にじいろ子育て手帳」も参考に、困りごとを知ってほしい。

## 【質問 4】

性的マイノリティの方に配慮している医療機関に関する情報はありますか。

- 多様な性的指向・性自認を持つ方が安心して受診・治療を行えるよう、医師と看護師が相談に対応する「SOGI\*相談窓口」を開設している病院がある。この病院では、院内で着用する病衣は性別を気にせず利用できるよう、色味を1色にするなどの工夫も行っている。
- 他の患者と顔を合わさずに受付ができる病院もある。
- また、性的マイノリティと健康・医療について適切な知識と態度を学び、考える機会として、**医療者向け**の講演会等を実施している「一般社団法人にじいろドクターズ」という団体もある。

## \* SOGI (ソジ)

あらゆる人の性を構成する要素や特徴を表す概念。

<b>S</b> exual <b>O</b> rientation (性的指向)  どのような性を好きになる／ならないか	Heterosexual (ヘテロセクシュアル)	異性愛者
	<b>L</b> esbian (レズビアン)	女性同性愛者
	<b>G</b> ay (ゲイ)	男性同性愛者
	<b>B</b> isexual (バイセクシュアル)	両性愛者
<b>G</b> ender <b>I</b> dentify (性自認)  自身の性をどのように捉えている／いないか	<b>T</b> ransgender (トランスジェンダー)	身体的性別と異なる性で生きる人、あるいは生きたいと望む人
	Cisgender (シスジェンダー)	身体的性別と性自認が一致する人

ここに紹介している用語だけですべてを網羅できるものではなく、性のあり方の多様性を知り、尊重することが大切。

# ご紹介いただいた参考資料

## ○ 埼玉県「多様性を尊重する共生社会づくりに関する調査報告書」

性的マイノリティが直面する困難等を明らかにするため、18歳～64歳の県民1万5千人を対象に、自身の性、直面する困難、行政へのニーズ等を調査した。調査期間は令和2年9月11日から10月4日まで。報告書は令和3年2月に公表された。

### 【結果の概要】

- ・ 自身を性的マイノリティに分類した人は184人（回答者5,506人の3.3%）
- ・ 直面した困難として、「性的マイノリティを差別する言動を見聞きすること」「性的マイノリティではないものとしてふるまわなければならないこと」などの回答が多い。

- 生きる価値がないと感じた「経験がある」は、『性的マイノリティ』で 60.3%、『性的マイノリティ以外』で 22.7%となっており、『性的マイノリティ』が『性的マイノリティ以外』より 37.6 ポイント多くなっている。
- 死ねたらと思った、または自死の可能性を考えた「経験がある」は、『性的マイノリティ』で 65.8%、『性的マイノリティ以外』で 26.8%となっており、『性的マイノリティ』が『性的マイノリティ以外』より 39.0 ポイント多くなっている。
- 手段など具体的に自殺について考えた「経験がある」は、『性的マイノリティ』で 42.9%、『性的マイノリティ以外』で 12.8%となっており、『性的マイノリティ』が『性的マイノリティ以外』より 30.1 ポイント多くなっている。
- 行政へのニーズとしては、「様々な施策の中に性的マイノリティへの配慮の視点を取り入れること」などの回答が多い。

## ○ 公益財団法人 日本財団「第5回自殺意識全国調査 調査結果」

若年層の希死念慮経験の実態、希死念慮経験に影響のある要因として考えられるものを明らかにし、加えて、要因の一つと考えられる性被害の実態を把握するため、全国の18～29歳の男女約1万4千人を対象に調査を行った。調査期間は令和3年11月10日から18日まで。調査結果は令和4年3月に公表された。

### 【結果の概要】

- ・ 性的マイノリティは、性的マイノリティ以外に比べて性被害経験・希死念慮ともに高い傾向にある。
- ・ 希死念慮や性被害について、「誰にも相談しなかった」人は3～5割を超え、各種支援サービスの認知向上や社会全体で支える雰囲気・仕組みづくりの必要性が浮き彫りになった。